

渡邊 晃・藤原悌三両教授の御退官によせて

渡邊晃先生は平成10年3月31日をもって京都大学を停年退官され、また藤原悌三先生は任期2年を残して同じく平成10年3月31日に京都大学を退職され、それぞれ同年4月1日付をもって京都大学名誉教授となりました。両先生には長年にわたり防災研究所における研究と発展に多大のご尽力をいただきましたが、両先生のご功勞に対しまして、所員一同心から感謝の意を表します。

渡邊晃先生は、福岡県立戸畑高校を卒業されたのち京都大学理学部地球物理学科へ入学され、昭和32年3月に同学科を卒業されました。その後、同大学院理学研究所に進学され、昭和36年3月に修士課程を修了されたのち同年4月に博士課程に進まれ、昭和38年3月に同課程を中途退学されて、同年4月に京都大学理学部助手に採用されました。昭和50年3月に同助教授に昇任され、平成2年6月に京都大学防災研究所に配置換となり、平成4年7月に教授に昇任されました。なお、昭和40年3月には論文題目「On the Sequence of Earthquakes (地震の系列について)」により京都大学理学博士の学位を授与されています。

この間、先生は、理学部附属地震予知観測地域センターにおきまして近畿地方の地震活動の観測・研究の発展を図られ、防災研究所附属地震予知研究センターの設立後は地震活動研究領域を担当され、同センター阿武山観測所および徳島観測所の管理・運営に当られるとともに、西日本の広域の地震観測網を統括されるなど、地震予知研究の推進に大きく貢献されました。

渡邊晃先生は、学術研究および教育の各分野におきまして多くの業績を挙げられますとともに、大学の管理運営面におきましても多大の貢献を果たされましたが、主なご功績を示しますと次の通りであります。

研究面におきましては、微小地震や極微小地震活動の観測方式を開発・発展させられ、阿武山地震観測網を構築されて高精度の微小地震観測を行われ、現在の地震テレメータ観測の基礎を築かれました。この観測網での結果を用いて、微小地震の発生機構と微細テクトニクスに関する理論的研究や、地震系列のエネルギー開放機構とそのモデル化の研究、グーテンベルグ・リヒターのb値と地震活動度に関する統計的研究を行われるなど、地震学会の微小地震研究グループの中心として活躍されました。特に微小地震のマグニチュードに関する研究は現在も「渡邊のマグニチュード」として工学分野も含めた広い範囲で地震活動の指標とされています。また、近隣の東京大学観測網や高知大学観測網などとの共同研究により南海ネットワークを構築され、西日本の広域にわたる地震活動やフィリピン海プレートの形状に関して先駆的な研究成果を挙げられました。また平成7年の兵庫県南部地震の発生に際しましては、地元大学の観測網の責任者として各研究機関へ基礎データを積極的に提供されるなど、地震観測の中心的役割を果たされました。

一方、教育面におきましては、大学院理学研究科の指導教授として多くの大学院生の教育と研究指導を行われ、後継研究者の育成に努められました。

また日本地震学会、日本火山学会、アメリカ地震学会などの会員として活発な学会活動を行われ、特に昭和43年から45年には地震学会委員および学会誌編集長として学会の発展に貢献されました。また平成4年から6年には測地学審議会地震火山部会委員(第22期)を務められ、地震予知計画の立案・策定に大きく寄与されました。さらに東京大学地震研究所地震予知研究協議会委員や地震予知連絡会委員なども務められ、地震予知研究の推進に大きな役割を果たされました。

藤原悌三先生は、京都府立洛北高校を卒業されたのち京都大学工学部建築学科へ入学され、昭和35年3月に同学科を卒業されました。その後、昭和41年3月まで(株)大坂建築事務所に勤務されましたが、この間の昭和39年4月に京都大学大学院工学研究科に入学され、昭和41年3月に修士課程を修了されたのち同年4月に博士課程に進まれました。昭和42年10月に同課程を中途退学されましたが、直ちに京都大学工学部助手に採用され、昭和48年12月に講師に昇任されました。昭和54年7月に京都大学防災研究所に配置換されて助教授に昇任され、さらに昭和60年8月に教授に昇任されました。平成10年3月に退職され、同年4月から滋賀県立大学環境科学部教授を務めておられます。なお、昭和53年9月には論文題目「建築架構の地震応答とその構成部材の耐震安全性に関する研究」により京都大学工学博士の学位を授与されています。

防災研究所では、昭和60年から脆性構造耐震研究部門の部門主任を務められ、平成8年からは改組された総合防災研究部門の都市空間安全制御分野のご担当となり、耐震工学・都市防災工学の研究を推進されてきました。

藤原悌三先生は、学術研究および教育の各分野において多くの業績を挙げられますとともに、大学の管理運営面におきましても多大の貢献を果たされましたが、主なご功績を示しますと次の通りであります。

研究面におきましては、建築構造物の耐震安全性向上の理論的・実験的研究を進められ、多次元地震動入力が作用する構造物の多次元非線形挙動について確定論的・確率論的な研究を行われ、振動実験によって解法の妥当性を検証され、非線形領域における構成部材の適正耐震設計法を導出されるなど、耐震工学上の基礎的な研究を行われました。また地震工学・耐震工学の深い知見に国内外の地震災害の調査・分析結果を加えられ、都市域の地震被害の論理的な予測手法を提示されるとともに、構造被害・室内被害と生活支障との関連の調査分析や実験検証を行われるなど、総合的都市防災計画手法について精力的に研究されました。

一方、教育面におきましては、大学院工学研究科の指導教官として多くの大学院生の教育と研究指導を行われ、専門技術者の養成と後継研究者の育成に努められました。

また日本建築学会、自然災害学会などの会員として活発な学会活動を行われ、評議員、専門委員会幹事などを歴任されるなどして学会の発展に尽力されました。さらに国内外の地震災害調査研究では調査団長として調査報告の編集を担当されるとともに、地震防災に関する日中共同研究の主宰、国際誌の編集などを通じて国際学術研究の発展にも貢献されました。このほか、京都市防災会議専門委員会、鳥取県有識者会議などの委員として自治体の防災行政に協力されるとともに、日本建築センター高層建物評定委員会委員、滋賀県建築物耐震診断委員会委員長等を務められ、都市建築物の耐震性向上にも貢献されました。

以上のように、渡邊晃先生および藤原悌三先生はいずれも学術研究ならびに教育の各分野におきまして多くの優れた業績を挙げられ、大学の管理運営面におきましても多大の貢献を果たしてこられました。

防災研究所は、平成8年度に5大研究部門・5センターへの改組ならびに全国大学の共同利用研究所への移行が認められたのに加え、平成9年度には卓越した研究拠点（COE）に認定されるなど、目覚ましい発展を遂げました。今後は、これらの発展を研究活動にいかに関与させ、どのような成果を挙げるかが問われることになります。

このように重要な時期に、深い学識と豊かな経験をお持ちの両先生が退官されますことは防災研究所にとりまして大きな痛手であり、誠に残念でございますが、残された所員一同は防災研究所の発展のためさらに奮励努力することにより両先生のご労苦に報いたいと存じます。

どうぞ、渡邊晃先生、藤原悌三先生におかれましては、今後ともご健康に恵まれ、新たな環境でますますご活躍されることをお祈りいたしまして、感謝の言葉とさせていただきます。

有り難うございました。

平成10年5月

京都大学防災研究所長
今 本 博 健



渡 辺 晃 教 授

渡 辺 晃 教 授 略 歴

(学歴・職歴)

昭和9年9月20日	福岡県北九州市に生まれる
28年3月	福岡県立戸畑高等学校卒業
28年4月	京都大学理学部地球物理学科入学
32年3月	京都大学理学部地球物理学科卒業
32年4月	京都大学大学院理学研究科修士課程入学
34年3月	京都大学大学院理学研究科修士課程終了 京都大学理学修士
34年4月	京都大学大学院理学研究科博士課程入学
36年3月	京都大学大学院理学研究科博士課程第2学年退学
36年4月	京都大学理学部助手
37年4月	京都大学理学部阿武山地震観測所配置換
41年4月	京都大学防災研究所助手併任（昭和45年3月で）
43年1月	京都大学大学院理学研究科学生指導（昭和50年3月まで）
50年3月	京都大学理学部附属阿武山地震観測所助教授
50年4月	京都大学大学院理学研究科担当（平成10年3月まで）
54年7月	京都大学理学部附属地震予知観測地域センター配置換
60年4月	京都大学大学院工学研究科担当（平成元年4月まで）
平成2年6月	京都大学防災研究所附属地震予知研究センター配置換
4年7月	京都大学防災研究所附属地震予知研究センター教授

(学会等)

昭和47年3月	地震学会委員（昭和49年3月まで）
---------	-------------------

(審議会・委員会)

昭和62年10月	測地学審議会臨時委員（昭和64年10月まで）
平成2年9月	測地学審議会臨時委員（平成4年1月まで）
平成4年3月	測地学審議会臨時委員（平成6年1月まで）
昭和62年4月	地震予知連絡会委員（昭和64年3月まで）
昭和61年9月	地震予知研究協議会委員（昭和65年8月まで）
平成4年4月	地震予知研究協議会委員（平成8年8月まで）

渡 辺 晃 研 究 業 績
論 文

発表年	論 文 名	発 表 誌 名	共 著 者
	A) 地震系列に関する研究		
1962	地震の系列について (I)	地震第2輯, 第15巻, 第2号, 67-78	
1962	地震の系列について (II)	地震第2輯, 第15巻, 第2号, 79-85	
1963	The occurrence of elastic shocks during destruction of rocks and its relation to the sequence of earthquakes,	Special Contributions, Geophys. Inst., Kyoto Univ. No. 3, 653-658.	
1964	On the sequence of earthquakes,	Special Contributions, Geophys. Inst., Kyoto Univ., No. 4, 153-192.	
1969	Seismic activity in the northern part of the Kinki district and related problems (1). — Earthquake swarm accompanying the Wachi earthquake of August 18, 1968—,	Special Contributions, Geophys. Inst., Kyoto Univ., No. 9, 123-136.	A. Kuroiso
1969	A property of minor shocks going ahead of large earthquakes,	Trans. Amer. Geophys. Union, EOS, No. 50, 5, 404-408.	
1972	Aftershock observation of a southeastern Nevada earthquake at Caliente,	J. Phys. Earth, 20, 409-415.	K. Takano · H. Hamaguchi
1973	Microearthquake survey in northeastern Honshu, Japan,	J. Phys. Earth, 21, 1-18.	H. Hamaguchi · K. Takano · F. J. Gumper · G. Boucher
1974	京都中部地震 (1968年3月18日) に伴う地震波速度の変化について	地震予知連絡会報, Vol. 11, 112-114.	
1974	伊豆半島沖地震に伴う天城山付近の地震活動	地震予知連絡会報, Vol. 12, 63-65.	梅田康弘 · 黒磯章夫 · 伊藤 潔
1977	小地震のプリカーサについて,	地震予知連絡会報, Vol. 18, 107-108.	
1984	京都付近の局発地震 (1983年11月16日, M=3.8) について	地震予知連絡会報, Vol. 32, 284-294.	
1984	京都府南部の地震 (1984年5月5日, M=4.7) について	地震予知連絡会報, Vol. 32, 295-305.	
1991	Temporal change of stress tensors and Gutenberg-Richter's b value during the aftershock sequence following the Kameoka earthquake (1987, M=4.9) in southwestern Japan,	Bull. Disast. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 41, 1-27.	N. Maeda
	B) 地震規模とスペクトルに関する研究		
1971	近地地震のマグニチュード	地震第2輯, 第24巻, 第3号, 189-200.	
1973	極微小地震の規模別頻度分布について	地震第2輯, 第26巻, 第2号, 107-117.	

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1973	近地地震のマグニチュード (続報)	地震第2輯, 第26巻, 第2号, 160-170.	
1974	近地地震のマグニチュード (第3報) — マグニチュードと最大振幅の周期との関係 —	地震第2輯, 第27巻, 第2号, 129-140.	
1975	震源スペクトルについての一考察	地震第2輯, 第28巻, 第1号, 106-108.	
	C) 微小地震データ処理に関する研究		
1977	阿武山地震観測所の微小地震テレメータシステムについて	地震第2輯, 第30巻, 第1号, 91-106.	黒磯章夫
1977	阿武山地震観測所における微小地震の自動処理について	地震第2輯, 第30巻, 第1号, 115-118.	黒磯章夫
1991	環境・防災監視システムにおけるセンサ利用技術, V. 地震監視	電気評論, 36-42.	
	D) 地震活動と地体構造に関する研究		
1965	根尾断層周辺に発生する極微小地震の観測	地震第2輯, 第18巻, 第2号, 103-112.	三木晴男・島田充彦
1967	根尾谷近傍に発生する微小地震の2, 3の性質	地震第2輯, 第20巻, 第2号, 106-115.	中村正夫
1967	紀伊半島西部の局所地震の二, 三の性質について	地震第2輯, 第20巻, 第4号, 180-191.	黒磯章夫
1967	極微小地震の移動観測	地震第2輯, 第20巻, 第1号, 12-21.	三木晴男・木村昌三・中村正夫・黒磯章夫・梅田康弘
1967	Seismometric Observations of Matsushiro Swarm Earthquakes. Part II Magnitude of Matsushiro Swarm Earthquakes.	Bull. Disas. Prev. Res. Inst. Kyoto Univ., Vol. 17, 16-20.	H. Miki・K. Okano・I. Hirano・S. Kimura・Y. Umeda
1967	Seismometric Observations of Matsushiro Swarm Earthquakes, Part III Mobile Observation of Ultramicro-earthquakes,	Bull. Disas. Prev. Res. Inst. Kyoto Univ. No. 17, 20-26.	H. Miki・M. Nakamura・A. Kuroiso・S. Kimura・Y. Kishimoto・M. Hashizume・K. Mino・S. Matsuo
1968	近畿地方南西部の地殻上層部の構造について	地震第2輯, 第21巻, 第1号, 32-53.	中村正夫
1969	Observation of Microearthquakes around Mt. Minakami, Trans. Amer.	Geophy. Union, Vol. 50, 5, 395-396.	M. Nakamura・A. Kuroiso・J. Akamatsu・T. Mikumo・K. Oike・K. Watanabe
1970	岐阜県中部地震—1969年9月9日—の余震について	東京大学地震研究所集報, Vol. 48, 1195-1208.	黒磯章夫
1984	微小地震の活動様式—近畿地方中北部の微小地震活動について—	地震第2輯, 第37巻, 第4号, 579-598.	前田直樹
1986	近畿地方の地震活動	東京大学地球化学実験施設集報, No. 4, 28-48.	
1987	花折断層に関連した地震活動	地震予知シンポジウム (1987), Proceedings, 115-122.	

発表年	論 文 名	発 表 誌 名	共 著 者
1990	Seismic activity of subcrustal earthquakes and associated tectonic properties in the southeastern part of the Kinki district, southwestern Japan.	J. Phys. Earth, 38, 325-345.	N. Maeda
1991	近畿地方北部の地震活動，西南日本内帯における主要活断層調査	西南日本内陸地震予知研究会，1-9.	
1992	微小地震の配列から推定される微細な活構造	シンポジウム内陸地震—発生の場と物理—，82-84.	
1992	四国東部および周辺地域における地震の発震機構	京都大学防災研究所年報，第35号，B-1，333-346.	許斐 直・伊藤 潔・近藤和男
1995	西南日本内帯における地殻内地震発生層	京都大学防災研究所年報，第38号，B-2，209-219.	伊藤 潔・松村一男・和田博夫・平野憲雄・中尾節夫・渋谷拓郎・西上欽也・片尾 浩・竹内文朗・渡辺邦彦・根岸弘明
1997	西南日本外帯における地殻下地震の活動特性	京都大学防災研究所年報，第40号，B-1，1-20.	中村正夫・許斐 直・木村昌三・三浦勝美
	E) その他		
1959	回転歪地震計	地震第2輯，第12巻，第4号，162-170.	
1961	桜島の火山性微動について	火山，2，6，29-41.	
1963	A rotational strain seismometer,	Bull. Disast. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ. No. 58, 1-15.	
1987	Microfilm of Historical Seismograms at Abuyama Seismological Observatory. Abuyama Seismological Observatory, Kyoto University	H. Miki・A. Kuroiso・Y. Umeda・K. Ito・Y. Iio	

著 書

発表年	論 文 名	出 版 社	共 著 者
1979	地震の科学	保育社	地震学会編

解説・その他

発表年	論 文 名	発 表 誌 名	共 著 者
1988	地震予知連絡会情報（第82回および第83回連絡会），	地震ジャーナル1988年6月号，48-51.	
1988	地震予知連絡会情報（第84回および第85回連絡会），	地震ジャーナル1988年12月号，46-49.	



藤原 悌三 教授

藤原 悌三 教授 略 歴

(学歴・職歴)

昭和11年 4月28日	京都府京都市に生まれる
30年 3月	京都府立洛北高等学校卒業
31年 4月	京都大学工学部建築学科入学
35年 3月	京都大学工学部建築学科卒業
35年 4月	株式会社大阪建築事務所入社
39年 4月	京都大学大学院工学研究科修士課程建築学専攻入学
41年 3月	京都大学大学院工学研究科修士課程建築学専攻修了 京都大学工学修士
41年 3月	株式会社大阪建築事務所退職
41年 4月	京都大学大学院工学研究科博士課程建築学専攻進学
42年10月	京都大学大学院工学研究科博士課程途中退学
42年10月	京都大学工学部助手
45年 4月	京都大学大学院工学研究科学生指導（昭和48年12月まで）
48年12月	京都大学工学部講師
53年 9月	京都大学工学博士
54年 7月	京都大学防災研究所助教授
60年 8月	京都大学防災研究所教授
平成10年 3月	京都大学防災研究所辞職
10年 4月	滋賀県立大学環境科学部教授
10年 4月	京都大学名誉教授

(学会等)

昭和50年 4月	日本建築学会海洋構造運営委員会委員（現在に至る）
昭和50年 4月	日本建築学会海洋構造運営委員会外力小委員会幹事（～平成2年3月）
昭和55年 4月	日本建築学会 SRC 分科会委員（～昭和61年3月）
昭和57年 4月	日本建築学会振動運営委員会地震荷重小委員会委員（～平成8年3月）
昭和60年 4月	日本建築学会海洋構造運営委員会信頼性小委員会委員（現在に至る）
昭和60年11月	日本建築学会評議員（～昭和62年10月）
昭和63年 4月	第9回世界地震工学シンポジウム運営委員会総務部会委員（～昭和63年10月）
平成2年 4月	J. Natural Disaster Science 編集委員会委員長（～平成4年3月）
平成4年 4月	日本建築学会振動運営委員会委員（現在に至る）
平成4年 4月	日本建築学会荷重運営委員会減衰評価小委員会委員（現在に至る）
平成4年 4月	日本建築学会荷重運営委員会減衰モデル検討ワーキンググループ委員（現在に至る）
平成7年 1月	日本建築学会地震災害委員会兵庫県南部地震災害調査速報編集委員会委員（～平成7年4月）
平成7年 4月	日本建築学会応用力学運営委員会構造物系の非線形・不確定モデリング小委員会委員 （現在に至る）
平成7年10月	日本建築学会「阪神・淡路大震災調査報告」編集委員会第10編木造構造物編集副委員長 （現在に至る）

(社会活動)

昭和58年 4月	日本建築センターコンクリート系建物評定委員会委員（～平成元年3月）
昭和58年10月	日本建築総合試験所 建築技術安全審査委員会委員（現在に至る）
昭和63年 4月	大阪工業大学構造実験センター専門委員会委員（～平成10年3月）

平成元年4月	日本建築センター高層建物評定委員会委員（現在に至る）
平成3年4月	日本建築総合試験所建築技術安全審査委員会常任委員会委員（～平成7年3月）
平成7年4月	京都市防災会議専門委員会委員（現在に至る）
平成7年4月	京都市応急対策施設耐震診断検討会議委員長（～平成9年3月）
平成7年4月	大阪市土木・建築構造物震災対策技術検討会委員（～平成9年3月）
平成7年4月	大阪市土木・建築構造物震災対策技術検討会木造ワーキング主査（～平成9年3月）
平成7年4月	鳥取県有識者会議委員（～平成8年3月）
平成7年7月	日本建築センター芦屋浜高層住宅耐震性能技術検討委員会委員（～平成8年3月）
平成8年9月	東北大学工学部災害制御工学研究センター評価委員会委員（～平成8年9月）
平成9年8月	京都府瓦工事組合活路開拓ビジョン調査事業専門委員（現在に至る）
平成9年10月	滋賀県建築物耐震診断判定委員会委員長（現在に至る）

藤 原 悌 三 研 究 業 績
論 文

発表年	論 文 名	発 表 誌 名	共 著 者
1965	地震応答解析の一例	日本建築学会近畿支部講演論文集, pp. 129-133	小堀鐸二・南井良一郎 ・井上 豊・久徳隆大
1966	弾塑性ジョイントをもつ架構の地震応答解析 —軸力を考慮した場合—	日本建築学会近畿支部講演論文集, pp. 81-84	小堀鐸二・南井良一郎
1966	弾塑性ジョイントをもつ架構の地震応答—軸 力を考慮した場合—	地震工学シンポジウム講演集 pp. 215-220.	小堀鐸二・南井良一郎
1968	架構の復元力特性に関する実験その1, X型 モデル,	日本建築学会近畿支部研究報告 集, pp. 133-136	小堀鐸二・南井良一郎 ・久徳敏治・俣野 博
1968	架構の復元力特性に関する実験その2, 門型 モデル,	日本建築学会近畿支部研究報告 集, pp. 137-140	小堀鐸二・南井良一郎 ・久徳敏治・俣野 博
1968	架構の復元力特性に関する実験	京都大学防災研究所年報, 第11号A, pp. 421-438	小堀鐸二・南井良一郎 ・久徳敏治
1968	架構の復元力特性に関する実験	竹中技術研究報告第3号, 12, pp. 1-13	俣野 博・石田 正・ 南井良一郎・小堀鐸二
1969	弾塑性ジョイントを含む架構の地震応答—梁 柱強度分布と応答分布の関係—	京都大学防災研究所年報, 第12号A, pp. 321-338.	小堀鐸二・南井良一郎
1970	降伏曲面を考慮した構造物の振れ応答	京都大学防災研究所年報, 第13号A, pp. 287-301.	小堀鐸二・南井良一郎
1971	R-O 型弾塑性建築架構の応答解析	京都大学防災研究所年報, 第14号A, pp. 301-313.	小堀鐸二・南井良一郎
1971	弾塑性建築架構の構成要素の地震応答	第18回橋梁構造工学研究発表 会, pp. 27-33	小堀鐸二・南井良一郎
1972	弾塑性建築架構の構成要素の地震応答 (続)	第19回橋梁構造工学研究発表 会, pp. 155-158	小堀鐸二・南井良一郎
1972	Earthquake Response of a Frame Structures Composed of Inelastic Members	Proc. of the Symposium on Resistance and Deformation of Structures and Their Compo- nents, 18th Sympo. Bridge and Struct Eng., pp. 25-42	KOBORI, T・ R. MINAI
1973	Earthquake Response of a Frame Structures Composed of Inelastic Members	Proc. of the 5th World Confer- ence on Earthquake Engineer- ing, Vol. 1, pp. 1772-1781	KOBORI, T・ R. MINAI
1977	Optimum Design of the Structural Members due to Ground Motion	Proc. of the 6th World Confer- ence on Earthquake Engineer- ing, Vol. 2, pp. 5.79-5.84	KOBORI, T・ R. MINAI
1977	曲げ型架構モデルの弾塑性地震応答と適正動 力学特性	日本建築学会論文報告集255号, pp. 25-34	
1978	弾塑性ジョイントをもつ立体架構の応答性状 について	第15回自然災害科学総合シンポ ジウム, pp. 293-296	
1978	An Approach to the Aseismic Design of the Structural Members	Proc. of the 5th Japan Ear- thquake Engineering Symposi- um, pp. 825-832.	
1979	Earthquake Response of Framed Structures Having Aseismic Elements, Part 1	Trans. Architectural Inst. Japan, No. 285, pp. 101-108	
1979	Earthquake Response of Framed Structures Having Aseismic Elements, Part 2	Trans. Architectural Inst. Japan, No. 286, pp. 65-73	

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1980	1 自由度系の基本応答関数について	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 333-336.	前野敏元
1980	Seismic Behavior of Inelastic Members of Braced Frame Structure	Proc. of the 7th World Conference on Earthquake Engineering, Vol. 7, pp. 241-248.	
1981	Experimental Study on the Dynamic Characteristics of Isolated Structures	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 31, Part 3, No. 282, pp. 151-169.	WAKABAYASHI, M ・ T. NAKAMURA ・ T. BASOTOV
1981	明治初期に建てられた煉瓦造建物の振動特性と保有耐力	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 85-88	
1981	1 層鋼骨組の振れ振動実験	京都大学防災研究所年報, 第24号 B-1, pp. 157-169	若林 實・中村 武・ 富田真一
1982	Experimental and Analytical Responses of Isolated Structures	Proc. 7th European Conference Earthquake Engineering, Vol. 4, pp. 463-470	WAKABAYASHI, M ・ T. NAKAMURA ・ T. Basotov
1982	2 方向地動を受ける立体構造物の動的崩壊過程その1, 振動実験と応答解析の比較	京都大学防災研究所年報, 第25号 B-1, pp. 129-149	若林 實・北原昭男
1982	Experimental Study on the Seismic Resistance of Brick Masonry Walls	Proc. of the 6th Japan Earthquake Engineering Symposium, pp. 881-888.	WAKABAYASHI, M ・ T. NAKAMURA, ・ M. TOMAZEVIC, ・ Y. ORITO
1982	Dynamic Failure Tests of Space Structures Subjected to Bi-Directional Horizontal Ground Motion,	Proc. of the 6th Japan Earthquake Engineering Symposium, pp. 737-744.	A. KITAHARA
1983	2 方向水平地動を受ける立体構造物の動的崩壊過程—その2 周波数特性の影響—	京都大学防災研究所年報, 第26号 B-1, pp. 183-198.	若林 實・北原昭男
1983	補強煉瓦造の耐震性に関する実験的研究(その1)	日本建築学会近畿支部研究報告集, 第23号, pp. 457-460	若林 實・中村 武・ 下戸芳寛
1984	連層耐震壁付架構の振動実験	第21回自然災害科学総合シンポジウム, pp. 89-92.	若林 實・中村 武・ 久保尚文・陶器浩一
1984	鋼3層骨組の地震時挙動に関する実験的研究(その1・実験結果)	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 457-460	若林 實・中村 武・ 林 康裕・斉藤哲朗
1984	鋼3層骨組の地震時挙動に関する実験的研究(その2・歪速度の影響評価と解析結果)	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 461-464	若林 實・中村 武・ 林 康裕
1984	定常地動の作用する鉄骨立体架構の弾塑性挙動	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 473-475	若林 實・北原昭男・ 桑名 斉
1984	2 方向水平地動を受ける立体構造物の動的崩壊過程—その3 限界変形とP- Δ 効果—	京都大学防災研究所年報, 第27号 B-1, pp. 125-140	若林 實・北原昭男・ 桑名 斉
1984	On the Aseismic Safety of Space Structures under Bi-Directional Ground Motion	Proc. of the Eighth World Conference on Earthquake Eng., San Francisco, Vol. IV, pp. 639-646.	A. KITAHARA
1985	1983年鳥取県中部地震による建築物の被害について	京都大学防災研究所年報, 第28号 B-1, pp. 307-316	中村 武
1985	構造物の復元力特性の形状が動的応答に及ぼす影響について(その2)	京都大学防災研究所年報, 第28号 B-1, pp. 281-296	若林 實・中村 武・ 田中 宏
1985	連層耐震壁付鉄筋コンクリート架構の履歴性状に及ぼす基礎浮上りの影響	京都大学防災研究所年報, 第28号 B-1, pp. 267-280.	若林 實・中村 武・ 久保尚文・陶器浩一

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1985	袖壁付き柱の終局耐力の評価法に関する基礎的研究	京都大学防災研究所年報, 第28号 B-1, pp. 237-252	若林 實・南 宏一・中村 武・社家寛子
1985	劣化型構造物の定式化履歴ループの形状と動的応答	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 301-304.	若林 實・中村 武・田中 宏
1985	袖壁付き柱の耐力と変形性状の評価法	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 105-108	若林 實・南 宏一・中村 武・社家寛子
1986	連層耐震壁付鉄筋コンクリート架構の履歴性状に及ぼす基礎浮上りの影響 (その2)	京都大学防災研究所年報, 第29B-1, pp. 125-137	中村 武・陶器浩一
1986	Shaking Table Test Of R/C Shear Walled Frames with Up-lifting of The Foundation	Proc. of the 7th Japan Earthquake Engineering Symposium., pp. 1141-1146	T. NAKAMURA・H. TOHKI
1987	2方向地動を受ける弾塑性構造物のランダム応答に関する解析的研究	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 261-264	中村 武・細川高志
1988	都市における建築構造物の地震被害推定に関する基礎的研究 (1) - 木造構造物の地震応答推定 -	京都大学防災研究所年報, 第31号 B-1, pp. 105-126	北原昭男
1988	Random Response of Inelastic Space Structures Subjected to Bi-Directional Ground Motion	Bull. Disas. Prev. Res. Inst., Kyoto Univ., Vol. 38, No. 338, pp. 163-185	T. HOSOKAWA
1988	Random Response of Space Structures Subjected to Bi-Directional Ground Motion	Proc. of Ninth World Conference on Earthquake Engineering, Vol. 5, pp. 197-202.	T. HOSOKAWA
1988	A Column Safe Design Method of Multi-Storey Building Structures under Earthquake Motion	Proc. of Ninth World Conference on Earthquake Engineering, Vol. 5, pp. 185-190.	A. KITAHARA・T. HOSOKAWA
1989	都市における建築構造物の地震被害推定に関する基礎的研究 (2) - 低層鉄筋コンクリート構造物の地震応答推定 -	京都大学防災研究所年報, 第32号 B-1, pp. 149-163	北原昭男
1989	Earthquake Hazards of Building Structures in Urban Areas	Proc. of the Japan-China (Taipei) Joint Seminar on Natural Hazard Mitigation, pp. 181-190.	KITAHARA, A.
1989	1988年ネパール・インド国境地震の災害調査	京都大学防災研究所年報, 第32号A, pp. 71-95	佐藤忠信・久保哲夫・村上ひとみ
1989	鉄筋コンクリート平面架構の地震応答に及ぼす動的軸力の影響	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 141-144	喻 徳明
1989	都市域における建築構造物の最大応答と表層地震動の最大速度との関係について	第8回日本自然災害学会学術講演会要旨集, pp. 2-3	北原昭男
1990	断面力間の相互作用を考慮した RC 立体架構の地震応答性状	京都大学防災研究所年報, 第33号 B-1, pp. 147-162	喻 徳明
1990	都市における建築構造物の地震被害推定に関する基礎的研究 (3) - 木造構造物群の地震被害推定 -	京都大学防災研究所年報, 第33号 B-1, pp. 163-177.	北原昭男
1990	Pattern of Casualty Occurance due to the 1988 Earthquake in the Nepal-India Border Region	Proc. 9th Symposium on Earthquake Engineering, Roorkee, Vol. 1, pp. 3.25-3.32	MURAKAMI, H・T. SATO・T. KUBO
1990	Main Causes of Building Damage Done by the 1988 Nepal-India Earthquake	Proc. 9th Symposium on Earthquake Engineering, Roorkee, Vol. 1, pp. 3.33-3.40	T. SATO・T. KUBO・H. MURAKAMI

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1990	1988年ネパール・インド地震による建物被害の要因分析	第8回日本地震工学シンポジウム論文集, 第1巻, pp. 31-36.	佐藤忠信・久保哲夫・村上ひとみ
1990	都市における建築構造物群の地震被害推定に関する研究	第8回日本地震工学シンポジウム論文集, 第2巻, pp. 2241-2246	北原昭男
1990	Effects of Dynamic Axial Forces on the Responses of a Reinforced Concrete Space Frame Subjected to Bi-Directional Horizontal Ground Motions	Proc. 8th Japan Earthquake Engineering Symposium, Vol. 2, pp. 1677-1682	Deming Yu
1991	水平二方向および上下方向地震動入力を受けるRC造立体架構の弾塑性地震応答解析	京都大学防災研究所年報, 第34号 B-1, pp. 101-126.	喻 徳明
1991	地盤特性を考慮した梁降伏型架構の適正設計	京都大学防災研究所年報, 第34号 B-1, pp. 89-101	秋元理仁
1991	Optimum Earthquake Resistant Design of Plane Frame Structures with Elasto-Plastic Beam	SINO-U.S. Joint Symposium /Workshop on Recent Development and Future Trends of Computational Mechanics in Structural Engineering, Beijing, China, pp. 326-342.	M. AKIMOTO
1991	変動軸力を考慮した鉄筋コンクリート立体架構の弾塑性地震応答解析	コンクリート工学論文集, 第2巻, 第2号, pp. 25-37	喻 徳明・北原昭男
1992	水平動と上下動の作用する平面架構のランダム応答	京都大学防災研究所年報, 第35号 B-1, pp. 13-33.	喻 徳明・鈴木祥之
1992	建築架構の上下応答特性について	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 353-356	喻 徳明
1992	Optimum Earthquake Resistant Design of Plane Frame Structures with Elasto-Plastic Beam	Computational Mechanics in Structural Engineering, Recent Development and Future Trends Elsevier Applied Science, pp. 326-342.	M. AKIMOTO
1992	Vertical Responses and Seismic Design of Frame Structures	Proc. of Workshop on China-Japan Joint Research for Earthquake Disaster Prediction and Mitigation, Beijing, China, pp. 146-158	Deming Yu
1992	居住空間の構造的機能的な地震被害の推定	京都大学防災研究所年報, 第35号 B-1, pp. 35-50	北原昭男
1993	構造物の上下地震応答と耐震設計	内陸地震による強震動の予測, 地盤・構造物・都市機能の障害とその対策に関する研究, 科学研究費重点領域研究(代表和泉正哲), pp. 205-220	
1993	建物群の耐震性と生活機能の被害度予測	内陸地震による強震動の予測, 地盤・構造物・都市機能の障害とその対策に関する研究, 科学研究費重点領域研究(代表和泉正哲), pp. 231-246	北原昭男
1993	立体構造物の上下地震応答と耐震設計	日本建築学会構造系論文集 第449号, pp. 93-102	喻 徳明
1993	上海市域における組積造構造物の地震応答に関する研究	京都大学防災研究所都市耐震センター研究報告, 第7号, pp. 59-79	北原昭男

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1993	1993年釧路沖地震被害調査報告（その1 建築構造物の被害概況）	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 337-340	岩井 哲・北原昭男
1993	1993年釧路沖地震被害調査報告（その2 建築物および室内の地震被害の分布特性）	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 341-344	北原昭男・岩井 哲
1993	Building and Indoor Damage Done by the 15 January 1993 Kushiro-oki Earthquake	Proc. of Third ROC and Japan Joint Seminar on Natural Hazards Mitigation, Nov., 1993, Tainan, Taiwan, pp. 357-371	S. Iwai
1993	Earthquake Response analysis of Masonry Buildings in the City of Shanghai	Natural Hazard Reduction and Mitigation in the East Asia, Part 3, Seismic Risk Assessment of Urban Facilities in a Sedimentary Region, DPRI, Kyoto University	A. Kitahara
1994	地震時における構造被害・室内被害の分布特性およびその評価に関する研究	日本建築学会構造系論文集, No. 458, pp. 39-48	北原昭男
1994	1993年釧路沖地震による都市施設被害と生活支障—アンケート調査報告—	日本建築学会構造系論文集, J. Struc. Constr. Eng., AIJ, No. 464, pp. 81-90	亀田弘行・林 春男・岩井 哲・北原昭男・能島暢呂
1994	1993年釧路沖地震による室内被害の特性とその生活への影響	第9回日本地震工学シンポジウム, pp. 37-42	北原昭男
1994	1993年釧路沖地震による建物・ライフライン被害と生活への影響に関するアンケート調査	第9回日本地震工学シンポジウム, pp. 2209-2214	岩井 哲・亀田弘行・林 春男・北原昭男・能島暢呂
1994	釧路市内の木造建物の耐震性	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 269-272	鈴木 有・北原昭男・菅野悦也
1994	1993年釧路沖地震による建築物復旧と防災対策の実態	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 753-756	平野直樹・北原昭男
1994	構造物の被害と耐震性	日本建築学会近畿支部, 1993年釧路沖地震に関する総合シンポジウム, pp. 33-40	
1995	木造建物の被害	日本建築学会近畿支部, 平成7年兵庫県南部地震災害調査速報, pp. 164-182	鈴木 有
1995	常時微動計測による釧路市内の建築物の振動特性	京都大学防災研究所年報, 第38号 B-1, pp. 27-42	北原昭男・鈴木 有・市川信夫
1995	1994年北海道東方沖地震による建築物被害	京都大学防災研究所都市耐震センター研究報告, 第9号別冊, pp. 95-115	北原昭男・鈴木祥之
1995	神戸市中央区地域での建物被害	平成7年兵庫県南部地震とその被害に関する調査研究 5.1.1, 文部省科学研究費（総合研究A）, pp. 345-357	鈴木祥之・中島正愛
1995	木造建物の被害	平成7年兵庫県南部地震とその被害に関する調査研究 5.5, 文部省科学研究費（総合研究A）, pp. 423-434	鈴木祥之・中島正愛・鈴木 有
1995	地震に強い町づくりをめざして	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 233-236	鈴木祥之・北原昭男

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1995	1993年釧路沖地震による被害建物の修理状況アンケート調査	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 241-244	岩井 哲・北原昭男・平野直樹
1995	Risk Management for Future Urban Planning Against Strong Earthquake	SINO-US Symposium on Post-Earthquake Rehabilitation and Reconstruction, Kunming, China, pp. 116-128	Y. Suzuki・M. Nakashima・A. Kitahara
1995	建築構造物の被害の実態	自然災害科学総合シンポジウム, 阪神・淡路大震災ー都市直下の地震の教訓	
1995	神戸市中央区における木造建物の被害	日本建築学会近畿支部, 1995年兵庫県南部地震ー木造建物の被害ー, pp. 41-48	鈴木祥之
1995	木造建物の地震被害が軽微に済んだのはなぜか?ー(その1) 1993年釧路沖地震の場合ー	第9回日本地震工学シンポジウム, Proc. 9th Japan Earthq. Eng. Symp., pp. 43-48	鈴木 有・北原昭男
1995	Overview of Building Damage and Damage to Wood Houses from the 1995 Hyogoken-Nanbu Earthquake	J. of Natural Disaster Science, Vol. 16, No. 2, pp. 79-87	Y. Suzuki・M. Nakashima・M. Bruneau・S. Iwai
1995	Damage to engineered buildings from the 1995 Hyogoken-nanbu earthquake	J. of Natural Disaster Science, Vol. 16, No. 2, pp. 71-78	M. Nakashima・Y. Suzuki・M. Bruneau・A. Kitahara
1996	建物の被害概要	「阪神・淡路大震災ー防災研究への取り組み」5.2, 京都大学防災研究所, pp. 375-379	鈴木祥之
1996	コンクリート系建物の被害	「阪神・淡路大震災ー防災研究への取り組み」5.5, 京都大学防災研究所, pp. 424-442	
1996	建物被害と都市耐震計画	「阪神・淡路大震災ー防災研究への取り組み」5.8, 京都大学防災研究所, pp. 480-493	鈴木祥之・北原昭男
1996	鉄筋コンクリート造建物の耐力と被害	「平成7年兵庫県南部地震の被害調査に基づいた実証的分析による被害の検証」, 文部省科学研究費(総合研究A)研究成果報告書(研究代表者), 第4編, pp. 54-61	
1996	兵庫県南部地震による建物被害と課題	「兵庫県南部地震における建築構造被害の総合評価」, 日本建築学会近畿支部, pp. 227-240	
1996	1995年兵庫県南部地震による宝塚・芦屋における建物被害の分布特性	京都大学防災研究所年報, 第39号 B-1, pp. 51-65	北原昭男・鈴木祥之
1996	地震動の強さと建物の耐震力	京都大学防災研究所年報, 第39号 A, pp. 67-81	
1996	1995年兵庫県南部地震による芦屋・宝塚における建物の被害分布特性	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 49-52	北原昭男
1996	不確定構造物の耐震信頼度解析	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 125-128	荒木時彦・鈴木祥之
1996	中低層鉄筋コンクリート造建物の耐力と兵庫県南部地震による被害	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 157-160	鈴木祥之・北原昭男

発表年	論文名	発表誌名	共著者
1996	中低層鉄筋コンクリート造建物の耐力と被害	J. of Japan Structural Consultants Association, No. 60, pp. 69-73	
1996	平成7年兵庫県南部地震の被害調査に基づいた実証的分析による被害の検証	第15回日本自然災害学会学術講演梗概集, pp. 73-74	岩田知孝
1996	宝塚市の変貌と地震の被害	第15回日本自然災害学会学術講演梗概集, pp. 77-78	北原昭男・鈴木祥之
1996	神戸市東灘区東部・芦屋市、西宮市西部の常時微動観測	第1回都市直下地震総合シンポジウム, pp. 153-156	木青木紀男・平野雅子・荻本孝久・鈴木祥之・北原昭男他
1997	高層建物における室内被害と応答性状	京大防災研究所共同研究集会「地震時における建築内部空間の安全性」(代表北浦かほる), pp. 13-18	横山浩明
1997	木造住宅の震災被害シミュレーションと耐震性の向上に関する研究	住宅総合研究財団研究年報 No. 23, pp. 309-317	
1997	住空間の耐震安全性向上のための課題	京大防災研究所共同研究集会「災害に強いまちづくりのための社会システムの構築」(代表岡田憲夫), pp. 59-62	
1997	阪神大震災を事例とする地震発生時刻別の死者数推定	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 25-28	小倉正臣・鈴木祥之
1997	筋かい付き木造軸組の耐力と変形性能の評価	日本建築学会近畿支部研究報告集, pp. 325-328	中治弘行・鈴木祥之・岩井 哲
1997	個別調査データに基づく兵庫県南部地震における人的被害発生要因の分析	日本建築学会近畿支部研究報告集	平野直樹・高岡秀樹・北原昭男
1997	直下型地震による居住空間の被害と防災計画	第2回都市直下地震災害総合シンポジウム	鈴木祥之・北原昭男・鈴木 有・村上ひとみ・平野直樹
1997	Effects of Vertical Responses on the Aseismic Design of Building Structures	Japan-China Joint Workshop on Prediction and Mitigation of Seismic Risk in Urban Region Xian, China, pp. 247-254	Deming Yu
1997	The Comparison between Damages in 1976 Great Tangshan Earth-quake and 1995 Hanshin-Awaji Earthquake	Japan-China Joint Workshop on Prediction and Mitigation of Seismic Risk in Urban Region, Xian, China, pp. 123-130	Youpo Su・Wen-qiu Wang
1998	1995年兵庫県南部地震における RC 造建物の被害と最大地動速度の樹形モデルによる相関評価	日本建築学会構造系論文集, No. 510 (掲載予定)	鈴木祥之・林 康裕
1998	3次元地震動の作用する家具の振動性状に関する研究	第11回日本地震工学シンポジウム (投稿中)	北原昭男・瀬戸隆之・北浦かほる・山崎かおる・松村夏子
1998	3次元地震動の作用する多層立体鋼骨組の動的崩壊課程に関する研究	第11回日本地震工学シンポジウム (投稿中)	北原昭男・谷 敬大・石原大雅
1998	1995年兵庫県南部地震による宝塚・芦屋における建物被害発生要因の分析	第11回日本地震工学シンポジウム (投稿中)	北原昭男
1998	京都市域の地震応答観測ネットワークと観測結果の考察	日本建築学会近畿支部研究報告集 (掲載予定)	鈴木祥之・小澤雄樹

著 書

発表年	書 名	出 版 社	共 著 者
1978	建築架構の地震応答とその構成部材の耐震安全性に関する研究	京都大学博士論文	
1985	海洋建築物構造設計指針（固定式）・同解説	日本建築学会	西村敏雄・花井正美・登坂宣好・松岡 理・笠井芳夫・清水五郎・小林 浩他多数
1985	鉄骨構造学詳論	丸善株式会社	若林 実編著 野中泰二郎・松井千秋 他13名
1989	Reconnaissance Report on the 21 August 1988 Earthquake in the Nepal-India Border Region	Research Report on Natural Disasters, Japanese Group for Natural Disaster Science, No. B-63-4, 総合研究A（代表者藤原悌三）	藤原悌三編著・佐藤忠信・久保哲夫・村上ひとみ
1991	Computational Mechanics in Structural Engineering, Recent Development and Future Trends	Elsevier Applied Science	Editor: F. Y. Cheng & FU Zizhi・T. T. Soong 他34名
1995	1993年釧路沖地震による都市震害に関する研究	京都大学防災研究所都市耐震センター研究報告, 別冊第15号	藤原悌三・亀田弘行編著・赤松純平・岩井 哲・北原昭男・鈴木 有・林 春男
1995	1995年兵庫県南部地震災害調査速報	日本建築学会	竹内吉弘・鈴木祥之他多数
1995	Preliminary Reconnaissance Report of the 1995 Hyogoken-Nanbu Earthquake	日本建築学会	Editor: Earthquake Disaster Committee, Y. Takeuchi・M. Nakashima, et al
1995	1995年兵庫県南部地震－木造建物の被害－	日本建築学会近畿支部	鈴木祥之編著・鈴木 有・東樋口護・土井 正・村上雅英・高橋象山・鎌田輝男・他24名
1995	平成7年兵庫県南部地震とその被害に関する調査研究	文部省科学研究費（総合研究A代表者藤原悌三）研究成果報告書	藤原悌三編著・安藤雅孝・入倉孝次郎・佐藤忠信・鈴木祥之・林 春男他50名
1996	平成7年兵庫県南部地震の被害調査に基づいた実証的分析による被害の検証	文部省科学研究費（総合研究A代表者藤原悌三）研究成果報告書, 全6編	藤原悌三編著・安藤雅孝・入倉孝次郎・佐藤忠信・鈴木祥之・河田恵昭他80名
1996	兵庫県南部地震における建築構造被害の総合評価	日本建築学会近畿支部	竹内吉弘・渡辺史夫・井上 豊他3名
1996	Post Earthquake Rehabilitation and Reconstruction	Pergamon	Editor: F. Y. Cheng & Y. Y. Wang
1996	平成7年兵庫県南部地震による宝塚市の被害の実態と原因分析	防災研究所, 宝塚市への報告書	鈴木祥之・北原昭男
1997	多次元入力地震動と構造物の応答	日本建築学会構造委員会・振動運営委員会	洪 忠喜・和泉正哲・滝沢春男・藤堂正喜・久野雅祥他50名

発表年	書 名	出 版 社	共 著 者
1997	Japan-China Joint Workshop on Prediction and Mitigation of Seismic Risk in Urban Region	文部省科学研究費（国際学術研究 代表者藤原悌三）	藤原悌三編著・ 安藤雅孝・入倉孝次郎 ・赤松純平・亀田弘行 ・鈴木祥之・佐藤忠信 他31名
1998	阪神・淡路大震災における死傷者発生要因に基づく人的被害推定に関する研究	京都大学防災研究所総合防災研究部門研究報告，第5号	小倉正臣・鈴木祥之
1998	阪神・淡路大震災調査報告建築編木造建築物/建築基礎	日本建築学会	坂本 功・藤原悌三編 著・共著者多数

解説・その他

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1964	新潟地震による建築物被害の第1次調査報告	日本建築学会論文報告集，第103号，p. 133	金 彦 潔・竹内吉弘
1968	架構の弾塑性復元力特性に関する実験	日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 423-424.	小堀鐸二・南井良一郎 ・久徳敏治・俣野 博
1968	弾塑性ジョイントをもつ架構の応答解析－梁柱強度比の応答に及ぼす影響－	日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 421-422	小堀鐸二・南井良一郎
1969	降伏曲面を考慮した非線形振れ振動 その1 基礎式と降伏曲面の基本的性質	日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 637-738	小堀鐸二・南井良一郎 ・又木義浩
1969	降伏曲面を考慮した非線形振れ振動 その2 一層非対称架構の地震応答	日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 639-640	小堀鐸二・南井良一郎 ・又木義浩
1971	R-O 型弾塑性部材からなる建築架構の地震応答	日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 609-610	小堀鐸二・南井良一郎
1973	三成分地震動を受ける構造物の弾塑性地震応答	日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 779-780	小堀鐸二・南井良一郎
1974	浄水場ビルの振動特性	日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 593-594	小堀鐸二
1977	筋違付架構の応答性状と部材の安全性	日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 735-736	
1980	鉄筋コンクリート骨組の動的崩壊挙動に関する一実験	日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1693-1694	若林 實・中村 武・ 南 宏一・泉 洋輔・ 小林宏彰
1981	スライド機構をもつ1層鋼構造物の振動実験	日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1905-1906	若林 實・中村 武
1981	1層鋼骨組の偏心質量による振れ振動に関する実験的研究	日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1909-1910	若林 實・中村 武・ 富田真一
1982	2方向地動の作用する立体架構の弾塑性挙動（その1 1層鋼構造物の振動実験）	日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 883-884.	若林 實・北原昭男
1982	レンガ造の耐震性に関する実験的研究（その1）	日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1743-1744.	若林 實・中村 武・ 下戸芳寛
1983	2方向地動の作用する立体架構の弾塑性挙動（その2）	日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1055-1056	若林 實・北原昭男
1983	2方向地動の作用する立体架構の弾塑性挙動（その3）	日本建築学会大会学術講演梗概集，pp. 1057-1058.	若林 實・北原昭男・ 桑名 斉

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1983	煉瓦造の耐震性に関する実験的研究(その2)	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 2373-2374	若林 實・中村 武・下戸芳寛
1984	鋼3層骨組の地震時挙動に関する実験的研究(その1・実験結果)	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 935-936.	若林 實・中村 武・林 康裕・斉藤哲朗
1984	鋼3層骨組の地震時挙動に関する実験的研究(その2・歪速度の影響評価と解析結果)	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 937-938	若林 實・中村 武・林 康裕
1984	2方向水平地動の作用する立体架構の弾塑性挙動(その4)	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 1391-1392	若林 實・北原昭男・桑名 斉
1985	袖壁付き柱の耐力と変形性状の評価法	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 455-456	若林 實・南 宏一・中村 武・社家寛子
1985	基礎の浮上りを含む連層耐震壁付架構の振動実験	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 265-266	若林 實・中村 武
1985	骨組の動的挙動	(共著)鉄骨構造学詳論, 丸善株式会社, 第16章, pp. 405-425	
1985	地震応答解析(2) - 立体架構の弾塑性地震応答 -	GBRC, Vol. 10, No. 4, pp. 18-24	
1986	筋違付3層鋼骨組の振動台実験	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 1031-1032	中村 武・斉藤哲朗
1987	2方向地動の作用する立体架構の弾塑性挙動(その5)	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 711-712	細川高志
1989	1988年ネパール・インド地震調査報告 その1 震度分布と人的被害	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 673-674	村上ひとみ・久保哲夫
1989	1988年ネパール・インド地震調査報告 その2 建物被害	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 675-676	久保哲夫・村上ひとみ
1989	都市域における低層 RC 建造物の地震時応答に関する研究	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 699-700	北原昭男
1989	柱部材に変動軸力を考慮した R/C 平面骨組の地震応答解析	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 927-928	喻 徳明
1990	建物の耐震安全性 - 五重の塔から超々高層建物へ - 都市の防災	京大防災研究所公開講座(第1回), pp. 67-92	
1991	三方向地動入力を受ける RC 立体骨組の地震応答解析	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 767-768	喻 徳明
1992	木製水槽の振動特性に関する実験報告	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 1167-1168	北原昭男
1992	多自由度バイリニア型履歴構造物の確率論的地震応答と耐震信頼性	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 687-688	井上貴之・鈴木祥之
1992	地盤の動特性を考慮した平面架構の水平・上下地震応答	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 511-512	喻 徳明
1992	建物の減衰性能, シンポジウム「耐震設計の常識を問う」	日本建築学会近畿支部耐震構造研究部会, pp. 1-10	
1993	建築建造物の被害概況	日本建築学会近畿支部講演会「1993.1 釧路沖地震」, pp. 3.1-3.20	岩井 哲・北原昭男
1993	建物および室内の被害分布とその特性	日本建築学会近畿支部講演会「1993.1 釧路沖地震」, pp. 4.1-4.14	北原昭男

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1993	建物挙動の立場から、「多次元入力地震動と構造物の多次元挙動に関するシンポジウム」	日本建築学会構造委員会, pp. 93-96	
1993	1993年釧路沖地震による建物被害の分布特性	日本建築学会大会学術講演梗概集 (構造 I), pp. 25-26	北原昭男
1994	1993年釧路沖地震による建物・内部空間・生活機能の被害に関するアンケート調査	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 285-286	岩井 哲・北原昭男・平野直樹
1994	アンケート調査による1993年釧路沖地震の室内被害と生活困窮	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 287-288	北原昭男
1994	釧路沖および能登半島沖地震による木造建物被害の比較	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 119-120	鈴木 有・北原昭男
1994	1993年釧路沖地震による室内被害対策の影響要因	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 619-620	平野直樹・北原昭男
1994	木造建物の耐震力と地盤特性 ―最近の地震災害から―	地震工学振興会ニュース	鈴木 有・北原昭男
1994	構造物系の非線形・不確定モデリングパネルディスカッション	日本建築学会	
1994	構造物の振れ振動性状	日本建築学会, 建物の振れ振動―多次元入力・多次元挙動―シンポジウム	
1995	木造住宅の被害と今後の課題	建 築 雑 誌, Vol. 110, No. 1372, pp. 28-29	
1995	1993年釧路沖地震による室内における被害の特性	地震工学振興会ニュース, No. 141, pp. 49-54	北原昭男
1995	Overview of Building Damage from the 1995 Great Hanshin Earthquake	DPRI News Letter, Kyoto University, pp. 13-20	Y. Suzuki・M. Nakashima・S. Iwai・A. Kitahara・M. Bruneau
1995	兵庫県南部地震に学ぶ	日本地震工学振興協会ニュース, No. 143, pp. 13-14	
1995	建築物, 都市施設の地震被害と耐震計画	信濃毎日新聞社, 防災シンポジウム	
1995	兵庫県南部地震と建築の被災	日本病院設備協会, 兵庫県南部地震と病院の被災状況の報告	
1995	研究の概要	平成7年兵庫県南部地震とその被害に関する調査研究1, 文部省科学研究費 (総合研究A), pp. 1-10	
1995	木造建物の被害の概要	日本建築学会近畿支部, 1995年兵庫県南部地震―木造建物の被害―, pp. 3-10	
1995	建築物, 都市施設の耐震計画について	第34回火災科学セミナー, 都市の直下型地震に備える, pp. 35-43	
1995	木造・RC 造建物の被害	日本建築学会, 平成7年兵庫県南部地震災害調査報告会 (名古屋)	
1996	「屋根と住宅と災害」―今後, どう対応すべきか―	Roof & Roofing, 1996夏号, pp. 27-28	

発表年	題 目	発 表 誌 名	共 著 者
1996	中低層鉄筋コンクリート造建物の耐力と兵庫県南部地震による被害	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 23-24	鈴木祥之・北原昭男
1996	阪神・淡路大震災による芦屋・宝塚の建物被害分布	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 53-54	北原昭男
1996	釧路沖地震による釧路地方気象台構内木造建物被害の検討	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 197-198	鈴木 有・北原昭男・後藤正美
1996	宝塚市の都市震害からみた地域類型	日本建築学会大会学術講演梗概集,	平野直樹・北原昭男
1996	応答曲面法による不確定構造物の耐震信頼度解析	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 569-570	鈴木祥之・荒木時彦
1996	都市と地震	日本建築学会, 海型地震と直下型地震による災害	
1997	地震発生時刻が異なる場合の死者数推定	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 125-126	小倉正臣・鈴木祥之
1997	筋かい付き木造軸組の耐力と変形性能の評価試験	日本建築学会大会学術講演梗概集, pp. 87-88	鈴木祥之・中治弘行・岩井 哲
1997	地震災害と防災課題について	京都府教育委員会防災安全教育研修会	
1997	大震災と防災対策	マルチメディアウエーブ' 97講演会	
1997	住宅構造の視点から	日本建築学会近畿支部50周年記念シンポジウム, 震度7ー安住できる都市を求めてー	
1997	安住できる都市を求めて	日本建築学会近畿支部創立50周年記念シンポジウム	
1998	瓦屋根の美しさと安全性	活路開拓ビジョン調査事業報告書	
1998	持続的都市防災計画の課題と提言	京都市防災会議	